

令和5年度 第3回 外国人指導研究部研修会

令和5年11月8日(水)
会場：浜松市立江南中学校

研究主題

夢をもって 多文化共生社会で生きる力を育む指導
～日本人児童生徒との温かな関わりを基盤にした在籍学級での学びを通して～

○顧問校長挨拶

- ・外国人児童生徒に対する日本語指導者養成研修に参加してきた。浜松は外国人の居住者が多く、日本語指導のフロントランナーの位置にあることが実感できた。
- ・日本語指導は「教育の原点」、「教育の本質」を問い直すことであり、浜松においては特に、管理職やその担当にある者が正しい知識をもち、覚悟をもって外国につながる児童の受け入れ態勢や学習環境を整えることが重要で、不可避なものであると感じた。



○実践発表 「初期日本語指導拠点校 江南教室での学び」

- ・対象 中学生年齢で初めて日本の学校に就学する生徒
- ・期間 就学後10週間
(週4日：金曜日は在籍校で学習を受ける。)
- ・指導内容 a) 学校生活適応指導
b) 日本語指導
c) 教科の基礎的な補習
- ・指導者 教員1名 教科指導員2名 日本語
- ・学習支援者(NPO) 2名 就学サポーター



○成果

- ・効率的な日本語集中指導
- ・仲間との学び合いの効果
- ・在籍校の負担軽減
- ・より深い生徒理解と生徒同士のコミュニケーションの形成



○助言 市教委指導主事

- ・外国人に関する調査を正しく実施して、適切な支援員の配置を進めていきたい。

○顧問校長 閉会の挨拶

- ・日本語の基礎指導を必要とする子供たちが江南教室でどのように成長していくかを学び各校での指導に生かしてほしい。

○江南教室見学

- ・オリジナル教材の活用
- ・教科の学びにつながる工夫 (天気+天気記号)
- ・使える日本語を増やすための工夫
生活日記 わたしの辞書 読書のあしあと



〈参加者の声〉

生徒が先輩の姿を身近に感じ、目標を立てて学んでいるので、短期間にもかかわらず多くの事を学ぶことができていると感じた。その学びをその後の在籍校でも続けていきたい。